

Aya さん(EAA)の発言

皆さん、こんにちは。本日は私たちをお招きいただき、ありがとうございます。私は「Engineers Against Apartheid(アパルトヘイトに反対する技術者たち)」を代表して参加しています。私たちは、パレスチナで現在進行しているジェノサイドによって利益を得ている企業に立ち向かうエンジニアやさまざまな労働組合活動家による組織です。

私たちは、FANUC 株式会社の子会社である FANUC America の本社があるミシガン州を拠点としています。

国際共同行動の日を迎える数週間前、私たちは FANUC America がポンティアック市で事業を拡張するため、12 年間の固定資産税減免(Tax Abatement)を求めているという情報を入手しました。

この税減免が認められれば、FANUC America は、本来であれば市のインフラ整備や地域社会の発展のために使われるはずだった税収を負担することなく、製造能力を拡大することが可能になります。

また、同じ税減免を申請していた企業として、ポンティアックに拠点を置く Williams International がありました。同社は精密誘導兵器を推進するためのエンジンを製造しています。

残念ながら、市民への啓発活動や、市議会で数多くの反対意見が表明されたにもかかわらず、7 人の市議会議員のうち 6 人が税減免と事業拡張の承認に賛成票を投じました。

私たちは、FANUC America や Williams International のような企業が、利益を得るために貧困化した都市を利用するというパターンを目の当たりにしています。彼らは最大限の税制優遇措置を要求し、その見返りとして契約上求められる最低限の雇用創出や地域投資しか行いません。

国際共同行動の日には、私たち 25 人がポンティアックにある FANUC America の施設前で抗議行動を行いました。

私たちの前には民間警備員が現れ、私たちを威圧するために写真や動画を撮影しました。彼らは私たちに建物から離れるよう要求し、その周辺に駐車している車両はレッカー移動すると脅しました。さらに、私たちに向けて散水装置(スプリンクラー)を作動させようともしました。

しかし、彼らの妨害にもかかわらず、私たちは粘り強く行動を続けました。通行する車両に呼びかけ、FANUC の加担について知らせ続けました。全体として従業員たちは私たちに好意的であり、FANUC がどれほど深く問題に関与しているのかを知って驚いていました。

米国の戦争経済は、かつてない規模に達しています。米国政府は、世界各地で紛争を激化させる一方で、兵器産業に対して納税者のお金から数十億ドルもの資金を引き続き投入しています。

こうした拡大し続ける暴力と流血への需要に応えるため、兵器メーカーは製造工程の可能な限り多くを自動化する必要に迫られています。

もし何の規制もなく放置されれば、FANUC は今後も利益を上げ続け、兵器製造産業の生産量と能力の向上を支え続けるでしょう。Engineers Against Apartheid は、FANUC がこうした事業から撤退(divest)するまで、その非倫理的な企業活動に反対する地域社会の運動を引き続き組織していく予定です。